



#### 第464回 平成28年5月19日(木)

#### テーマ▶「松下幸之助に学んだ 素直な心と志」

講師 入間市倫理法人会会員  
埼玉県議会議員 杉島理一郎 氏



私がまだ学生だった頃、実家が倒産しました。銀行の手のひらを返すような対応に憤りを感じ、経営で苦しむ企業の力になりたいと日本政策金融公庫に就職しました。入社4年目、岩手宮城内陸地震の災害融資担当となり、行政の縦割りや心のない対応に憤りを感じましたが、一職員としては無力でした。その時、宮城県知事のリーダーシップによって行政の対応が一変し、政治の力を感じました。これをきっかけに、村井知事も卒業された松下政経塾を知り入塾したのです。政経塾はバブルの中、松下幸之助が「政治に理念がない！」と国家の未来を憂い、真のリーダーを育成するために立ち上げた塾です。そこでは、「素直な心で衆知を集める」事の大切さを学びました。素直な心とは、私心なくものごとをありのままに見つめ、全てを受け入れ、全てを生かすということです。しかし、同時に大切なのは「志」であり、和して同ぜずのあり方だと学びました。入塾2年目、東日本大震災で塾にある黎明の塔が大きく揺れ、この鐘の音を初めて聞いた時、「何をやっとなるんや！」と幸之助の怒りの声を聞いたような気がしたのです。私はすぐに被災地に飛び、被災地に長く住み込んで復興に尽力しました。そして、凄惨な故郷の地で涙を流す小野寺代議士の選挙を経験し、何か大きな使命を感じ、自分の故郷での出馬の決意をし、今に至ります。幸之助の想いと共に、素直な心と志をもって、故郷百年の大計を果たすべく頑張っております。 文責 出川

#### 第465回 平成28年5月26日(木)

#### テーマ▶「世界一幸せな生き方とは」

講師 足立区西倫理法人会 幹事  
オープンハートの会 会長 古市佳央 氏



私は16歳の時にバイク事故で全身の41%に火傷を負いました。そして二度ともとの体には戻らないと分かった時の絶望。夜になると毎日泣きながら自殺しようと思いましたができませんでした。それは当時我が家は生活が厳しく、母は昼と夜も働きに出っていたので見舞いに来てもベッドにもたれて眠ってしまうほど疲れていたのに1年8か月一日も欠かさず見舞いに来てくれたからなのです。それまで母がしてくれることは全て当たり前のことと考えていましたが、初めて感謝の気持ちが生まれました。そして生きる意味を考えました。自分が居なくても世の中何も変わらないと考えている人は多いと思いますがとんでもありません。あなたが居なくなると残された人たちは悲しみ、泣くのです。あなたが当たり前に生きている「当たり前前の幸せ」をあなたのまわりに与えていることを是非自覚してください。私は事故のおかげで、生きているのではなく生かされているということを実感することができました。そして背中を押してくれた人との出会いで講演するようになり、大勢の人に感謝される喜びを知り、生きる勇気を頂きました。皆さんも絶対に無理!と思う壁に突き当たる事があるかも知れませんが、そんな時は大きな声で「助けて!」と叫ぶのです。プライドを捨て自分をさらけ出す事ができればあなたを助けた人が必ず現れます。「死」に値する壁はこの世に無いのです。ひとの使命は他を認めて喜ばせてあげることだと思います。これからも障害者が生きやすい社会づくりのお手伝いをしていきたいと考えています。 文責 出川

#### 第466回 平成28年6月2日(木)

#### テーマ▶「愛和は繁栄のもと」

講師 一般社団法人 倫理研究所  
法人アドバイザー 能野恵美子 氏



「愛和は本と末、原因と結果が愛によって和を得た 相、和のもととは愛である。そしてこの愛和は、家庭の幸福のもとである。」

葉の8.「明朗愛和」の一節を示しながら説明されました。苦難(問題)に対しては、倫理の教えの指導・実践により証明されます。この話をされたあと、能野法人アドバイザーは自からの体験を語られました。



私は椎間板ヘルニアで激しい痛みを発症、医師より「大手術の必要あり」と伝えられ、「この術後のリスクは車椅子の生活になることも覚悟して下さい」と告げられた。事の重大さから研究員から指導を受け、「親への感謝・お詫をすること」といわれた。継母との今までのことを思い出し「真の親子になりなさい」との指導により5日間の入院中に継母への感謝の念から「涙の洗浄」となって己を変えることができた。

この実践のお陰で手術は大成功。車椅子も使うことなく生活できる迄に全快。今では86歳の今日まで、各地へ研究所からの派遣による出張講話が出来るほどの健康体を取り戻しました。

実践して体験を得ることで、良い結果が出る。この倫理実践の素晴らしさを体験して下さい。 文責 岩崎

#### 第468回 平成28年6月9日(木)

#### テーマ▶「倫理実践と成果」

講師 古河市倫理法人会  
相談役 吉田 清 氏



平成14年3月(2002.3) 古河倫理法人会入会  
平成18年度/平成19年度 古河倫理法人会会長  
平成20年~平成22年 古河倫理法人会普及拡大委員長

倫理法人会にはポスティング1枚で入会「自ら進んで入会しました。」

動機:倫理にはいい人がいる。倫理の学びからこころの不安を取り除くことが出来る。

始めの実践は、朝も夜も倫理の勉強会に出席すること。役職をもらう。3年半で会長に(会長—そのために多くの人々との交り、学ぶことがある。会社のためにも有効になった)。

会長になったら妻がモーニングSに出席してくれるようになった。息子が後継者倫理塾に参加。—意識が変わり、後継者としての自覚が強くなった。

社員との関係—朝礼を取り入れた時、社員が会社を退職という話が出た。お客様に好かれる社員が育つ。会社づくりに役立っている。現在の倫理とのかかわり—私は他の人から「なぜ倫理を続けているか」と問われたら「ご先祖、親の思いを子孫にまで続けていくためです」とお答えしている。